

令和元年度 埼玉県県土整備部との技術懇談会

概 要

開催日時：令和2年2月5日（水）
14:00～16:30

会 場：ヘリテイジ 別所沼会館
1階 会議室

令和2年2月

埼玉県土木施工管理技士会

技術顧問 山口 勝

埼玉県県土整備部との技術懇談会

埼玉県土木施工管理技士会

開催日時：令和2年2月5日(水)

14:00～16:30

会 場：ヘイデン 浦和別所沼会館

次 第

1. 挨拶 14:00～14:10
埼玉県土木施工管理技士会
会 長 松本 泰典
埼玉県県土整備部建設管理課
課 長 新井 哲也 様
2. 出席者紹介 14:10～14:25
3. 情報提供
建設管理課の取り組み 14:25～14:55
建設管理課 主査 田口 敬之 様
主査 黒河内 直子 様
主査 中野 泰博 様
埼玉県技士会の紹介 14:55～15:05
埼玉県土木施工管理技士会 技術顧問 山口 勝
4. 休憩 15:05～15:15
5. 意見交換 15:15～16:05
意見交換議題概要説明 技術顧問 山口 勝
意見交換 提案議題（資料3参照）
6. フリー討議 16:05～16:25
7. 閉会挨拶（総括） 16:25～16:30
埼玉県土木施工管理技士会 副会長 根岸 清志

以 上

配付資料一覧

1. 次 第
2. 出席者名簿
3. 座席表
4. 進行表

埼玉県

- ・建設管理課の取組み状況

資料－ 1

埼玉県土木施工管理技士会

- ・埼玉県技士会の紹介
- ・令和元年度全国技士会アンケート結果
「よりよい設計図書の作成のために」

資料－ 2
冊子配布

令和元年度 意見交換会 提案議題

資料－ 3

提案議題に対する埼玉県からの回答に関しては非公開としますが、回答についてご質問のある方は、下記にお問い合わせください。

《 問合せ先 》

埼玉県土木施工管理技士会 技術顧問 山口 勝

T E L : 049-229-5622 (代表)

F A X : 049-229-5633 (代表)

T E L : 049-298-3903 (直通)

E - mail : m-yamaguchi.gisikai@waltz.ocn.ne.jp

令和元年度 埼玉県県土整備部との技術懇談会 出席者名簿

埼玉県土木施工管理技士会					埼玉県県土整備部			
	支部名	役職名	氏 名	会 社 名		所 属	職 名	氏 名
1	川 越	会 長	松本 泰典	(株)関東建設	1	建設管理課	課 長	新井 哲也
2	本 部	技術顧問 副 会 長	山口 勝	埼玉県土木施工 管理技士会	2		副課長	新井 昌行
3	さい たま	副 会 長 支 部 長	根岸 清志	島田建設工業 (株)	3		土木積算・建設 IT 担当 主 幹	三谷健太郎
4	〃	副支部長	小角 勝之	三ツ和総合	4		土木積算・建設 IT 担当 主 査	篠原 啓一
5	〃	副支部長	永野 長一	(株)松永建設	5		建設企画担当 主 査	田口 啓介
6	朝 霞	支 部 長	橋本 英世	関口工業(株)	6		技術管理担当 主 幹	高野 工
7	〃	副支部長	手塚 秀夫	サクラ建設 (株)	7		技術管理担当 主 査	黒河内直子
8	北 本	支 部 長	中居 秀樹	(株)東 栄	8		技術管理担当 主 査	中野 泰博
9	〃	副支部長	梶山 健	梶山工業(株)	9	さいたま 県土	施工監理主幹	高梨 俊明
10	川 越	支 部 長	日向 貴一 (代)細目只夫	日栄建設(株)	10	朝霞県土	施工監理主幹	長森 佐和
11	〃	副支部長	水戸喜代志	(株) 太田組	11	北本県土	施工監理主幹	奥重 裕貴
12	飯 能	支 部 長	駒井 克男	駒井建設(株)	12	川越県土	施工監理主幹	香取 裕司
13	〃	副支部長	高野 修	(株)加藤建設工 業	13	飯能県土	施工監理主幹	永井 英喜
14	東松山	支 部 長	木川 克己	(株)田中工業	14	東松山県土	施工監理主幹	齋藤 潔
15	〃	副支部長	鈴木 光由 (代)岩上幹雄	(株) 島村工業	15	秩父県土	施工監理主幹	岡本 史靖
16	秩 父	支 部 長	小池 達夫	(株) 斎藤組	16	本庄県土	施工監理主幹	岡本 敬助
17	〃	副支部長	守屋 一男	(株) 岩田組	17	熊谷県土	施工監理主幹	秋山 泰輝
18	本 庄	支 部 長	鈴木 元道	(株) 関口組	18	行田県土	施工監理主幹	根岸 克好
19	〃	副支部長	蛭川 修	真下建設 (株)	19	越谷県土	施工監理担当課長	石川憲之助
20	熊 谷	支 部 長	丸橋 達雄	田部井建設(株)	20	総合技術 センター	主任工事検査員	佐藤 裕之
21	〃	副支部長	榎本 修	古郡建設(株)	21	西 関 東 連 絡 道 路 建 設 事 務 所	建設担当 担当部長	菅原 博
22	行 田	支 部 長	小暮 一男	こぐれ建設 (株)				
23	〃	副支部長	小賀野真弘	小川工業(株)				
24	越 谷	支 部 長	金澤 嘉和	池中建設(株)				
25	〃	副支部長	佐藤 孝治	須合建設(株)				
26	杉 戸	支 部 長	井上 昭司	(株)井上工務店				
27	〃	副支部長	星野 暢良 (代) 細井 匠	星野工業 (株)				

令和元年度 埼玉県土木施工管理技士会との技術懇談会 提案議題

1. 総合評価方式に関すること

提案議題1 「継続教育（CPD）の取組み」の評価と対象工事の拡大について

提案内容（趣旨）

土木施工管理技士会の継続学習制度（CPDS）の目的は、技術者が自己研鑽の活動を通じて、国民の福祉に役立つ良質な目的物を創造するための技術力と資質の向上を図ることにあります。

2019年1月現在、全国技士会のCPDS加入者数は16万人を超え、国土交通省など多くの発注機関により技術者の評価基準として活用されています。

埼玉県では、平成28年度の総合評価方式から配置予定技術者の技術能力評価に「継続教育（CPD）の取組み」が選択評価項目として設定されましたが、平成30年度の改訂では、簡易型（標準パッケージ：土木Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ型、特定課題パッケージ：若手育成型、地域担手型）の評価対象から外されました。

一方、土木Ⅰ型では、「登録基幹技能者の配置」が新規に必須評価項目として設定されました。設定理由は、

- ・品確法運用指針（H27.1月）に登録基幹技能者の活用が謳われたこと。
- ・登録基幹技能者は、建設現場において職長経験を有する経験豊富な技術者であり、建設工事

の品質向上に寄与する。との記述があります。

ここで、建設工事の品質向上には、登録基幹技能者の評価も必要なこととは思いますが、工事品質の確保・向上はもとより工事全般を適切に監理・指導することになる技術者の評価が重要であると考えます。

特に近年、情報通信技術をはじめ現場で使用する技術は、日進月歩で進化しています。加速する変化に適切に対応するための継続学習は必要不可欠です。

今回の改訂では、特に、土木Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型においては「継続教育（CPD）の取組み」を評価対象に設定していただきますようお願いいたします。

また、今後の発注工事に際しては、この評価項目を積極的に選択していただきますようお願いいたします。

2. 設計、積算に関すること

提案議題1 積算の条件明示について

提案内容（趣旨）

最近の設計図書には、入札参加者の適切かつ迅速な見積りに資するための「積算参考資料」として、資材単価一覧表、積算資料一覧表などが添付されています。

資材単価一覧表には、見積金額や物価資料（建設物価、積算資料）の2誌平均値などが記載されていますが、下記の点についても明示していただきますようお願いいたします。

1. 物価資料の場合は、品名、規格の明示
2. 物価資料の大口・小口のような取引数量で計上している場合の明示
3. 採用単価の地区の明示

2. 設計、積算に関すること

提案議題2 その他 意見・要望

提案内容（趣旨）

1. 建設機械賃料で、長期割引の有無を明示していただきたい。
2. クレーン作業料金は、夜間補正の有無を明示していただきたい。
3. 積算時の全体工程表を開示していただきたい。

3. 業務の効率化・生産性の向上に関すること

提案議題1 設計図書（設計コンサルの成果品）の品質向上について

提案内容（趣旨）

「土木工事設計変更ガイドライン」の策定や重複書類の見直しにより、この1、2年、会員（現場技術者）からの設計変更や提出書類に関する要望等は大幅に減ってきております。

一方、依然として、発注図と現場とが違ふ。設計条件と現場条件とが一致しない。設計の施工方法では現場での施工ができない。といった設計図書と現場との齟齬については多くの声があがっております。

このような場合は、現地調査をはじめ、変更資料（図面・数量等）の作成、変更協議などに多くの時間と労力を要するとともに、工事着手の遅れ、経費の増加、長時間労働や休日出勤に繋がる大きな要因となっています。

品質の高い設計図書（設計コンサル成果品）をもって発注していただきますようお願いいたします。

3. 業務の効率化・生産性の向上に関すること

提案議題2 概略設計、概算数量による発注工事について

提案内容（趣旨）

災害復旧工事等では、通常の工事のような発注は困難と思われませんが、概略設計や概算数量により発注される工事については、図面と現地とで施工範囲の特定や官民境界の確認ができない場合があります、設計照査に多くの時間を費やすことになります。

施工範囲や境界確認が可能となる図面をもって発注していただきたい。困難な場合は、適時、現場を確認していただき方針を示していただきますようお願いいたします。

4. その他、意見・要望

提案議題1 年度内出来高の履行が必要な工事について

提案内容（趣旨）

受注後、予算の関係から年度内出来高を履行するよう指示されることがあります。

このような場合、工事によっては、非現実的な工程を作成せざるを得ない場合があります。

実施工程は、受・発注者が相互に納得のいく工程を作成し管理されるべきと考えます。

年度内出来高を履行しなければならない工事については、適正な工期（年度内出来高の履行が可能となる期間）を設定し、発注していただきまようお願いします。

○再要望事項

1. 発注（入札）段階での施工に影響を及ぼす諸条件の明示について

提案内容（趣旨）

受注前に施工に影響を及ぼす諸条件が把握できるよう、例えば、支障物件がある場合は、「支障物の内容および管理者、位置、移設時期、防護の必要有無、工事着手可能時期など」また、協議未了の場合には「協議内容、解決見込み時期など」詳細情報を特記仕様書に明記するようお願いいたします。

○再要望事項

2. 工事書類の受け渡しについて

提案内容（趣旨）

工事を円滑に進めるためには、受発注者間相互の速やかな工事関係書類の受け渡しが不可欠です。速やかな受け渡しをお願いします。

○再要望事項

3. 設計変更に伴う概算額の明示について

提案内容（趣旨）

設計変更に伴う概算額の明示については、担当者によって異なる対応が散見されますので、概算額の明示をお願いします。

○再要望事項

4. 協議や支障物件、資機材調達に日数がかかる工事について

提案内容（趣旨）

関係機関等との協議や支障物件の移設等が必要な工事、資機材調達等に日数を要する工事の場合は、協議等に要する期間、調達期間（発注から現場納入までの期間）を見込んだ工期を設定し、発注していただきたい。

令和元年度 埼玉県県土整備部との意見交換会（フリー討議）

設計に関する要望

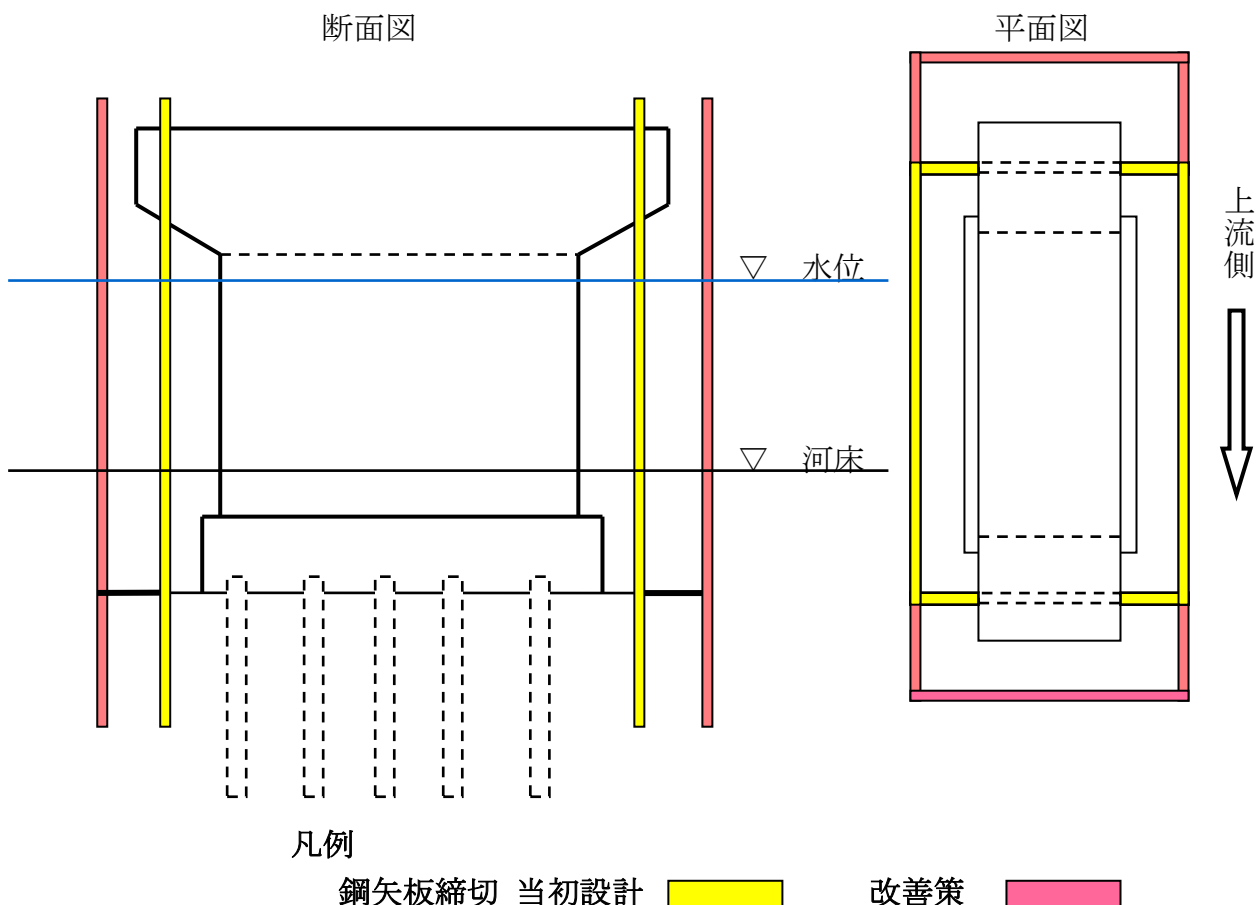
1. 河川内（低水路）の橋脚施工における仮締切の形状について

橋脚を低水路に築造する工事で、下図に示す通り、橋脚の梁部が鋼矢板仮締切にかかる仮設計画（黄色着色）がみられます。

この場合、通常の施工順序は、①鋼矢板打設（仮締切）②掘削・土留め支保工③基礎（フーチング）施工 ④柱部（壁部）施工 ⑤柱部コン養生、型枠取り外し⑥埋戻し ⑦梁部にかかる範囲の鋼矢板引抜 ⑧梁部施工足場・支保工設置 ⑨梁部施工⑩梁部施工足場・支保工撤去、梁部にかかる範囲外の鋼矢板引抜となります。

ここで、赤着色部のように仮締切平面寸法を梁部にかからないように計画した場合は、上記の⑤の工程短縮、⑥・⑦の作業をなくすことができます。⑧の工程短縮が可能となります。加えて、鋼矢板引抜に伴う重機の運搬回数も減らすことができます。

一方、仮締切の平面寸法を拡大するため、鋼矢板の使用枚数や土留め支保工、掘削・埋戻し等の数量が増加することになりますが、低水路内での施工となるような場合は、工期短縮を重視し、効率的な施工が可能となる仮設設計をしていただきますようお願いします。



2. 河川工事で大型土のうを採用した瀬替えや仮締切の計画について

大型土のうを用いた瀬替えや仮締切を計画する場合には、当該場所の河床の土質や降雨による増水など、考慮して安全かつ適切な計画をしていただきますようお願いします。

3. 土留め壁の仮設設計について

1. 鋼矢板の根入れ長

鋼矢板土留壁の根入れ長は、つり合い深さの計算と設置個所の対象地盤によりヒービングやボーリングも併せて検討し決定することになりますが、つり合い深さの検討のみで決められているケースが見受けられます。

根入れ長など仮設設計にあたっては、ジャストポイントでの土質調査や被圧水の有無等を確認し、安全かつ適切な設計仮設を計画していただきますようお願いします。

令和元年度 埼玉県県土整備部との技術懇談会

開催日：令和2年2月5日（水）14:00～16:30

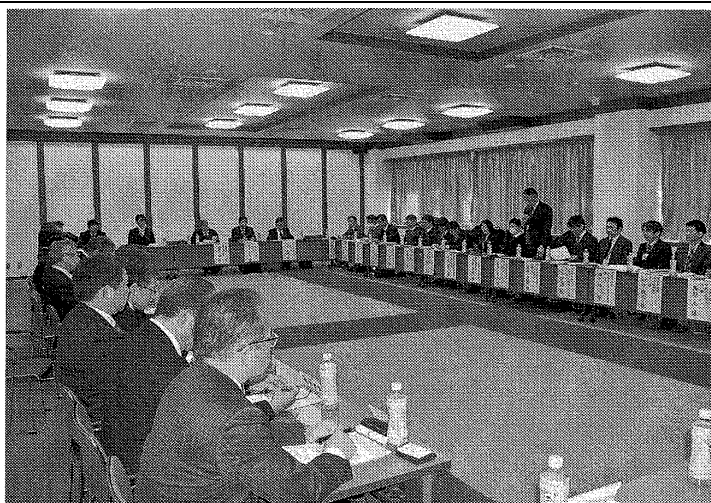
会場：別所沼会館（ヘリテージ）1階会議室

埼玉建設新聞 2020年（令和2年）2月13日（木）

土木施工管理技士会

CPDの加点を要望

県土整備部と技術懇談会



技術的なテーマについて議論した

埼玉県土木施工管理技士会（松本泰典会長）は5日にヘリテージ浦和別所沼会館で県土整備部と「CPD」の取り組みを加点してほしいと技術懇談会を開いた。強く要望。また積算の条

件明示、設計図書品質向上などについて、受発注者双方が対等な立場で議論し、前進させる考えを共有した。

冒頭に松本会長は「人口減少と著しい少子高齢化を迎える時代に入ってしまった。重要な課題である担い手の確保や働き方改革による現場の改革が必要となっている」と述べ、ICTを活用して生産性を向上させることの重要性を唱えた。

一方、県土整備部の新井哲也建設管理課長は昨年10月の台風19号で被災状況の調査などに会員企業が果たした役割について謝意を示した。その上で現在取り組んでいる災害復旧工事を迅速に進めることの重要性を強調。背景には不調・不落が発生すると工事完了が3カ月程度遅れ、特に河川工事などでは6月の出水期に間に合わなくなってしまうという懸念がある。

昨年12月に総合評価方式での加点、工事成績での評価、技術者配置の緩和、検査書類の簡素化と、できる限りの不調・不落対策を打ち出したことを紹介した。

また働き方改革と生産性向上に向けて、労務費と機械経費などを加算補正する週休2日モデル工事に取り組んでいることや、ICTで小規模な土工に対応するための積算基準の新設を行い、普及拡大に努めていること、さらには設計変更ガイドラインに基づく円滑な設計変更協議を重視する考えを伝えた。

意見交換でまず技士会は、総合評価方式における「継続教育（CPD）の取組み」の加点を要望。18年度ガイドライン改訂で、簡易型の評価対象から外された状態となっている。現場の技術は進化しており「適切に対応するための継続学習は必要不可欠」との考えから、次回の改訂では土木I型などで評価対象に設定してほしいと求めた。

建設管理課では「CPDの重要性は認識しており、業界や総合評価審査委員会の意見を聞きながら検討しているところ」と回答し理解を求めた。

また積算の条件明示についても意見を交わした。物価資料に品名、規格などを明示してほしいと求めた技士会に対し、同課では「公平性の観点からどうしてもメーカー名などは明示しにくい」としつつも、わかりやすい表記に努めると答えた。積算時の全体工程表の開示については、今後の検討課題と回答。これに対して技士会は「週休2日など適正な工程計画を策定する上でも重要であり示していただきたい」（山口勝技術顧問）と重ねて要望した。

フリー討議では山口技術顧問が▽河川内（低水路）の橋脚施工における仮締切の形状▽施工ができない設計図面（カルバート・ボックスの補強工）▽河川工事で大型土のうを採用した瀬替えや仮締切▽土留め壁の仮設計について、技術的な観点から説明、県に改善を提案した。最後は根岸清志副会長が県側の丁寧な回答に感謝の言葉を述べ「今後が楽しみ」と締めくくった。